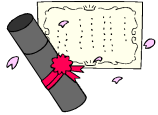


	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 やさしい子 考える子 丈夫な子</p>	志木市立志木第三小学校
		平成28年度 No 1 2
		平成29年3月 1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数3月1日現在580名



## 76名の卒業生へ ”旅立ちの日に”

校長 可知 良之

今年も学校の音楽室に卒業式ソングが流れ出しました。いよいよ1年の締めくくりである卒業式の準備が始まりました。小学校6年間は1200日近くありますが、卒業式の日のことを覚えていない人は、まずいでしょう。それだけ、一人一人の心に残る大切な日なのだと思います。

卒業式ソングといえば、かつては「仰げば尊し」が定番でした。私もこの曲を聴くと小中学生の頃に戻った気がします。40代くらいの方ですと「贈る言葉」や「巣立ちの歌」などを歌ったという人も多いのではないのでしょうか。卒業式の最後に歌う歌にも時代時代の流行があります。その時の学校での出来事と歌詞が心にしっくりくるからかもしれません。

さて、今年の卒業式の「別れの言葉」（卒業生が卒業式の最後に巣立っていく想いを込めて発表する呼びかけ）の最後には、合唱「旅立ちの日に」と書かれていました。

「旅立ちの日に」は今、全国の小中学校で最も歌われている卒業式ソングです。1991年、秩父市立影森中学校の校長であった故小嶋登先生が作詞をし、音楽教師の坂本浩美先生が作曲した合唱曲で、もともとは3年生を送る会で教職員から3年生に向けて歌うためのものだったそうです。歌詞には、学校を巣立っていく卒業生たちに勇気と希望をもって旅立ってほしいと願う気持ちが込められています。2番では、その気持ちに応えるように力強く飛び立とうと

する生徒の決意が込められています。この曲が出来た頃の影森中学校は、つっぱりも多く、学校としてのまとまりもあまりありませんでした。そのような学校を歌で変えていく、歌声の響く学校にする、こうした取り組みを始めて3年目、次第に変わってきた生徒たちに世界に一つしかないものを残したいという思いから出来たのが、この合唱曲なのだそうです。こうした想いの込められた歌だからこそ、卒業式ソングの定番曲として多くの学校で歌われているのだと思います。

よく卒業式と略してしまいましたが、正しくは卒業証書授与式といいます。小学校の課程を卒業したことを証明し、その証としての卒業証書を一人一人に授与する式典ということです。儀式ですので多少の堅苦しさはありますが厳かで厳粛に執り行う中に、卒業する喜びと、学校、先生、友達と別れていく寂しさを感じつつ、心を震わせる感動を味わってほしい小学校最後の学習です。別れの言葉である子供たちによる呼びかけ、そして、その最後で歌う「旅立ちの日に」。6か年の全ての課程を修了し、新しい進路に向かって大きく羽ばたいてほしいと願っています。その姿を壇上でしっかりと見送りたいと思います。

*平成28年度卒業生	76名
通算卒業生総数	4785名